



すわっ子だより

学校教育目標 ともに伸びる子
かしこく ゆたかに たくましく
令和5年12月1日(金)
第8号 発行責任者 渋谷 恵子
在籍児童数147名
<http://higashiiwatsuki-e.saitama-city.ed.jp>

違いを尊重する

校長 渋谷 恵子

冬の始めの時期となりました。保護者の皆様には、10月に引き続き学校公開へのご参観並びにすわ森の除草ボランティアにご協力いただき、誠にありがとうございました。当日は、授業の様子や業間の過ごし方とともに、児童の学習の成果となる数々の作品をご覧いただけだと思います。図画工作の授業で描いた絵や立体作品、書写の授業で書いた作品、国語の授業で書いた作文やワークシート、紹介文など、完成する度に担任が掲示しています。児童の作品には、学習の成果もあるのですが、一人ひとりの自由な発想や考えも表れています。ですから、頑張っている様子とともに、その児童の個性も伝わってきます。一つとして同じものではなく、素敵だなあ、面白いなあと感じつつ、時間を忘れて見入ってしまいます。児童たちも、お友達の作品を見て、自分の作品とは違うよさを見つけて伝え合っている様子もあります。学年を越えて様々な作品を鑑賞することを通して、多様な考えや価値に触れるよい機会となっています。

ある時、「校長先生は、男の子？女の子？」と低学年の児童数名から質問されました。髪を短くした次の日でしたので、髪の毛が短い＝男の子と思ったのでしょうか。素朴な疑問を投げかけたのだと思いますし、私も特に気に留めていませんでした。しかし、その後に参加した講演をきっかけに、同じような場面に出会うと小さな違和感を抱くようになりました。それは、「性の多様性」についての講演だったからです。私自身、未だ無意識のうちに性差や男女の役割等について固定的な思い込みや偏見を持っていることを、改めて気付かせてもらうことができました。多様性を尊重し、誰にとっても生きやすい学校や社会を築くために、小さな違和感を大切に、考えたり行動したりしていくことが求められていると感じています。

法務省では、12月4日から12月10日を「人権週間」と定め、1949年から毎年、全国的に人権啓発活動を特に強化して行っています。本日のお話朝会では、市内の小学校4年生の児童が書いた人権作文を紹介し、児童と共に、人権について考える機会としました。

～自分のこせいに自信をもってほしい。ぼくは、人のこせいをバカにしたり、からかったりは、ぜったいにしない。世の中の人、みんなちがうんだ。にている人はいても、同じ人はだれもない。～

(「令和4年度人権文集第22集『じんけん』さいたま市教育委員会」より一部抜粋)

児童たちには、自分も周りの人も大切にする、自分と周りの人とは違いがあるけどそれを認め、尊重する、その上で「自分にできることは何か」を一緒に考え、行動していきましょう、と伝えました。誰にとっても過ごしやすい学校を、児童や教職員、保護者、地域の皆様とともに創ってまいりたいと思います。

保護者、地域の皆様に対しまして、改めて今年一年のご支援、ご協力に深く感謝申し上げますとともに、よい年をお迎えくださいますようお願いいたします。